| 形態記号 | ファイル番号 | アイテム番号 | ファイル名 | ファイル作成者 | アイテム名 | アイテム作成者 | アイテム受信者 | ファイル作成年月日 | 公開評価 | 非公開理由 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P | 0434 | | 筋短　大阪 | 冠木克彦弁護士 | | | | 1981.12.18<br>1982.5.27 | | | 弁護団Box<br>3の4段 |
| P | 0435 | | 筋短　大阪 | 冠木克彦弁護士 | | | | | | | 弁護団Box<br>3の4段 |
| P | 0436 | | 丙⑯第2～90号証 | 冠木克彦弁護士 | | | | | | | 弁護団Box<br>3の4段 |
| P | 0437 | | 丙⑦第7号証の1～第15号証 | 冠木克彦弁護士 | | | | 1982.4.24 | | | 弁護団Box<br>3の4段 |
| P | 0438 | | 丙⑦第7～15号証 | 冠木克彦弁護士 | | | | 1982.2.23 | | | 弁護団Box<br>3の4段 |
| P | 0439 | | 筋短丙⑦第7号証の1～15号証 | 冠木克彦弁護士 | | | | 1982.2.23 | | | 弁護団Box<br>3の4段 |
| P | 0440 | | 筋短縮症（III）　（袋入分） | 冠木克彦弁護士 | | | | | | | 弁護団Box<br>3の5段 |
| P | 0441 | | 筋短　（袋入分） | 冠木克彦弁護士 | | | | | | | 弁護団Box<br>3の5段 |
| P | 0442 | | 筋短他訴状　Ｎｏ．２　福島、愛知、京滋（本村）　（袋入分） | 冠木克彦弁護士 | | | | | | | 弁護団Box<br>3の5段 |

| 形態記号 | ファイル番号 | アイテム番号 | ファイル名 | ファイル作成者 | アイテム名 | アイテム作成者 | アイテム受信者 | ファイル作成年月日 | 公開評価 | 非公開理由 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P | 0443 | | 筋短他訴状　Ｎｏ．１　山梨 | 冠木克彦弁護士 | | | | | | | 弁護団Box 3の5段 |
| | | | 以上、2015-2-15段階の入力 | | | | | | | | |

備考：山梨Ａ、Ｂは「全国連絡協議会」保管文書

京滋は「京滋協議会」保管文書

その後、組織改編で「薬害筋短縮症の会」

## ▣ 圖書

| 形態記号 | ファイル番号 | アイテム番号 | 図書名 | 発行者（社） | 公開評価 | 非公開理由 | 流通または自費出版 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| B | 0001 | | 注射による筋短縮症 | | 公開 | | 流通 | 19961200 |
| B | 0002 | | 大腿四頭筋短縮症資料集 第１集 | 松本文六編、九州・山口・広島注射による筋短症自主検診調査団事務局 | 公開 | | 自費出版 | 19761100 |
| B | 0003 | | 注射による筋短縮症資料集 第２集 | 大塚純一編、九州・山口・広島注射による筋短症自主検診調査団事務局 | 公開 | | 自費出版 | 19880400 |

## ▣ 視聴覚

| 形態記号 | ファイル番号 | アイテム番号 | 視聴覚タイトル名 | 発行者（社） | 公開評価 | 非公開理由 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| V | 0001 | | 日本整形外科学会卒後研修用サウンド・スライド集<br>第７７巻筋短縮症の診断と治療〔スライド７６コマと音声テープ１巻（39分）〕 | （社）日本整形外科学会筋短縮症委員会藤本憲司他、メディカルリサーチセンター | 公開 | | 年不詳 |

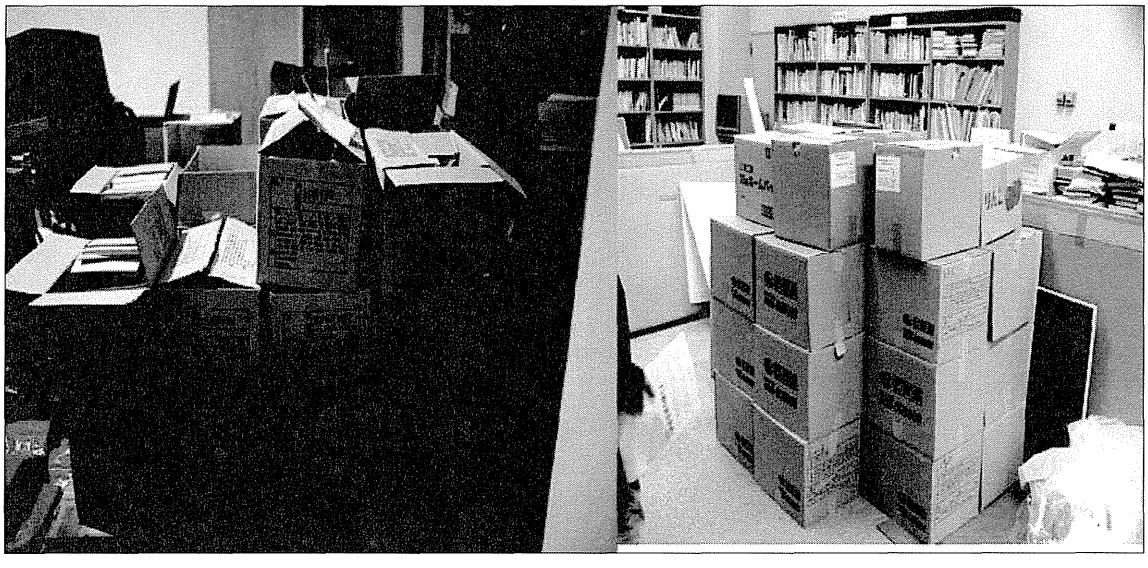
# Ⅴ．　廃棄寸前救われた薬害資料の緊急避難

## １．緊急収集活動： 廃棄寸前救われた薬害資料の緊急避難

### ◆ 筋短縮症・福岡薬害スモン記録の緊急収集

福岡スモン団体の事務所の移転に伴い、資料が保存されていた建物が壊されることから、資料を大阪人権博物館の一角に移管した。（薬害被害者連絡協議会と栗原敦さんの協力による）

廃棄寸前に救われた筋短縮症資料と福岡スモン資料



場所；大阪人権博物館の地下書庫前、2階作業室

## ◆ 薬害関連資料の展示：薬害被害者連絡協議会と大阪人権博物館の活動

企画展　薬害を語り継ぐ－サリドマイド・スモン・薬害ヤコブ

展示期間：2015 年 10 月 17 日(土)～12 月 19 日(土)

主　　催：全国薬害被害者団体連絡協議会

共　　催：大阪人権博物館　（会場：大阪人権博物館特別展示室）

戦後、それまでの医制から医師法、医療法、旧薬剤師法などが整備され、日本が近代的医療体制の確立を目指し始めた 1940 年代後半から現在まで、薬害は繰り返されてきた。公害同様、薬害も科学技術の産業化を急速に振興することを優先し、様々な危険を軽視してゆくことによってもたらされた人災である。医薬品の安全性よりも利便性をも含む有用性が強調され、より多く販売されることが良いことであるかのような価値観は薬害が必然的に生み出される先行条件となった。　薬害被害は、筆舌に尽くし難い苦痛や死をもたらし、被害者は今なお、薬害被害との闘いを余儀なくされている。しかし、一方で被害者は、その傷ついた身体から発せられる叫びにも似た想いに支えられて、日々薬害根絶への活動を続けている。今回の企画展示は、それぞれの薬害が単に過去の歴史なのではなく、近代社会そのものに内在する根本的欠陥を、あざやかに指し示す教訓の宝庫であることを実感してもらうとともに、薬害被害者が、被害とともに生きてきた軌跡は、決して平坦なものではないものの、被害者各々の生の営みは、多くの輝きに満ちたものでもある。

（企画展「薬害を語り継ぐ」チラシより）

# VI. 参考文献

## 1. 記録学関連図書

『史料館・文書館学への道―記録・文書をどう残すか―』、安澤秀一、吉川弘文館、1985 年
『史料保存と文書館学』、大藤修・安藤正人著、吉川弘文館、1986 年
『記録管理と文書館 ： 国際文書館評議会派遣使節第 1 回文書館振興国際会議報告集』、ICA Mission 受入実行委員会編、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、1987 年
『記録管理システム』、ウイリアム・ベネドン著 ； 作山宗久訳、勁草書房、1988 年
『レコード・マネジメント ： 記録管理学会誌 = Records management : journal of the Records Management Society of Japan』、記録管理学会 編、記録管理学会、1993 年
『地域文書館論』、高野修、岩田書院、1995 年
『記録史料の管理と文書館』、安藤正人，青山英幸編著、北海道大学図書刊行会、1996 年
『草の根文書館の思想』安藤正人、岩田書院ブックレット3、岩田書院、1998 年
『記録史料学と現代 ： アーカイブズの科学をめざして』、安藤正人著、吉川弘文館、1998 年
歴史人類学会編『国民国家とアーカイブズ』(日本図書センター、1999 年 11 月)
『記録史料記述の国際標準』ｱｰｶｲﾌﾞｽﾞ・ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ研究会編訳、北海道大学出版会、2001 年
『情報公開制度のための文書管理 ： 行政編』、紀伊國屋書店、2001 年
『組織のための知的資産の蓄積と伝承 ： 企業編』、紀伊國屋書店、2001.2
『近現代史料の管理と史料認識』鈴江英一、北海道大学図書刊行会、2002 年
『文化情報学―人類の共同記憶を伝える―』安澤秀一・原田三郎編著、北樹出版、2002 年
『日本のアーカイブズ論』全史料協編、岩田書院、2003 年
『アーカイブズの科学』、国文学研究資料館史料館編、柏書房、2003 年
『アーカイブ事典』小川千代子・高橋実・大西愛、大阪大学出版会、2003 年
『地域と歩む史料保存運動』越佐史料調査会編、岩田書院ブックレット9、岩田書院、2003 年
『電子媒体による公文書等の適切な移管・保存・利用に向けて ： 調査研究報告』、国立公文書館、2006 年
記録管理学会・日本アーカイブズ学会共編『入門アーカイブズの世界―記憶と記録を未来に―』(日外アソシエーツ、2006 年)
『入門アーカイブズの世界 ： 記憶と記録を未来に ： 翻訳論文集』、記録管理学会、日本アーカイブズ学会共編、日外アソシエーツ、2006 年
『The 2nd Asia-Pacific conference for archival educators and trainers "The archival science and archival education in the electronic age" professional seminar = 第 2 回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議「電子時代におけるアーカイブズ学研究とアーカイブズ学教育」専門セミナー』compiled by Masahito Ando, Kaori Maekawa, Akihiro Hirayama、International Council on Archives、2006 年
『アーカイブズの眼―記録の管理と保存の哲学―』大濱徹也、刀水書房、2007 年
『明日の図書館情報学を拓く ： アーカイブズと図書館経営 ： 高山正也先生退職記念論文集』、高山正也先生退職記念論文集刊行会編、樹村房、2007 年
『アーカイブへのアクセス―日本の経験、アメリカの経験―』小川千代子・小出いずみ編、日外アソシエーツ、2008 年
『文書管理・記録管理入門 ： ファイリングから ISO マネジメントまで』、城下直之、日外アソシエーツ、2008 年

『電子文書保存のしくみと実務 ： 記録管理の基本と標準化』、木村道弘・前田陽二・宮崎一哉著、中央経済社 , 2008 年
『研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド』、仲本和彦、凱風社、2008 年
『今、なぜ記録管理なのか=記録管理のパラダイムシフト ： コンプライアンスと説明責任のために』、小谷允志著、日外アソシエーツ、2008 年
『アジアのアーカイブズと日本 ： 記録を守り記憶を伝える』、安藤正人著、岩田書院、2009 年
『アーカイブズが社会を変える－公文書管理法と情報革命－』松岡資明、平凡社新書、2011 年
『つながる図書館・博物館・文書館』石川徹也ほか編、東京大学出版会、2011 年
『実践アーカイブ・マネジメント－自治体・企業・学園の実務－』朝日崇、出版文化社、2011 年
『マルチレベルモデル入門 ： 実習:継時データ分析』、安藤正人、ナカニシヤ出版、2011 年
『電子記録応用基盤に関する調査検討報告書 ： クラウド時代の安心安全な電子記録管理 ： 電子記録応用基盤フォーラム(eRAP)』、日本情報経済社会推進協会、2011 年
金慶南「東日本大震災における震災・原発の記録化事例研究－ 法政大学環境アーカイブズ資料公開室の活動を中心に」『アーカイブズ研究』17, pp.51－75、日本アーカイブズ学会、2012 年 11 月
金慶南「歴史の記憶・記録をどう 守るのか― 公文書レスキュー」『持続可能性の危機―地震・津波・原発事故災害に向き合って』舩橋晴俊・長谷部俊治、御茶の水書房、pp. 117-128、2012 年 9 月
『文書と記録のはざまで ： 最良の文書・記録管理を求めて』、小谷允志、紀伊國屋書店、2013 年
『アーカイブズの構造認識と編成記述』国文学研究資料館編、思文閣出版、2014 年
『電子記録管理論』韓国国家記録研究院、ソーニン図書出版、2013 年
『社会調査事典』社会調査協会編、丸善出版、2014 年
杉山弘 「東京都立多摩社会教育会館旧市民活動サービスコーナー資料の移管経緯と「市民活動資料・情報センターをつくる会」の活動」、『大原社会問題研究所雑誌』673 巻、p.3-9、2014 年 11 月
花田昌宣 「水俣学関連資料管理・活用の現状と課題」、『大原社会問題研究所雑誌』673 巻、p.10-16、2014 年 11 月
チョ・ヒヨン 「韓国の民主化運動、過去の継承 そして聖公会民主化運動資料館」、『大原社会問題研究所雑誌』673 巻、p.17-30、2014 年 11 月
*David B.Gracy Ⅱ、Archives & Manuscripts: Arrangement& Description、SAA、1977*
*Frebric M. Miller、Arranging and Describing Archives and Manuscripts、The society of American Archives Chicago、1990*
*McKemmish. S. "Evidence of Me". The Austrian Library Journal. 45(3), 1996*
*Fisher, In search of private archives: The foundational writings of Jenkinson and Schellenberg revisited Archivaria 67. 1-24, 2009*
*SusieR, Bock/Lucy M.Krammer/George Miles、Guide to the Feliy S. Cohen Papers WAMSS S-1325、1991/Revised 2010*
*Harris. V. On the back of the tiger: Deconstructive possibilities in "Evidence of Me". Archives and Manuscripts 29(1), 2001*
*Kim Jihyun, An Analysis of Policies on the Acquisition of Private at State/Provincial Archives in the U.S., Canada and Australia, Society for Archives & Records Management of Korea 14, 2014 (韓国語)*

## 2. 薬害関連図書

『お前は忘れても、俺は忘れへん—「薬害エイズ」絶望からの闘い史上最悪の医療犯罪の真実』、家西悟、ロングセラーズ、1997 年
『ミドリ十字と 731 部隊—薬害エイズはなぜ起きたのか』、松下一成、三一書房、1996 年
『薬害エイズ国際会議』、大阪 HIV 訴訟弁護団、彩流社、1998 年
『家西悟全記録—薬害エイズと闘う』、家西悟、解放出版社、2000 年
『薬害エイズ裁判史第 1～5 巻』、東京 HIV 原告団、日本評論社、2002 年
『薬害 HIV 感染被害者遺族の人生—当事者参加型リサーチから』、山崎喜比古・井上洋士、東京大学出版会、2008 年
『健康被害を生きる—薬害 HIV サバイバーとその家族の 20 年』、井上洋士・伊藤美樹子、山崎喜比古、勁草書房、2010 年
『安部英医師「薬害エイズ」事件の真実』、武藤春光・弘中惇一郎、現代人文社、2008 年
『薬害エイズ—終わらない悲劇』、櫻井よし子、ダイヤモンド社、1999 年
『健康被害を生きる—薬害 HIV サバイバーとその家族の 20 年』、井上洋士ほか編、勁草書房、2010 年
『日本に生きるということ 薬害エイズ被害者が光を見つけるまで』、川田龍平、講談社、2007 年
『この国はなぜ被害者を守らないのか子ども被災と薬害エイズ』、川田龍平、PHP 研究所、 2013 年
『薬害エイズを生きる—帝京大病院血友病患者島田照国の記録』、西野瑠美子、明石書店、1996 年
『血の帝国—日米薬害エイズの舞台裏』、マサミ・コバヤシ・ウィーズナー、彩流社、1996 年
『新ゴーマニズム宣言スペシャル脱正義論』、小林よしのり、幻冬舎、1996 年
『日本のエイズ—薬害の犠牲者たち』、広河隆一、徳間書店、1993 年
『薬害エイズ再考—医師から見た薬害エイズの真実』、加沼戒三、花伝社、1998 年
『砂時計のなかで—薬害エイズ・HIV 訴訟の全記録』、島本慈子、河出書房新社、1997 年
『薬害エイズの真相』、広河隆一、徳間書店、1996 年
『いのちの歌薬害肝炎たたかいの軌跡』、山口美智子、毎日新聞社、2010 年
『ドキュメント検証 C 型肝炎—薬害を放置した国の大罪』、フジテレビ C 型肝炎取材班、小学館、2004 年
『がんばらんと! 薬害に遭って、見えてきたこと』、福田衣里子、朝日出版社、2009 年
『薬害肝炎—誰が C 型肝炎を「国民病」にしたか』、大西文恵、金曜日、2005 年
『薬害 C 型肝炎女たちの闘い—国が屈服した日』、岩澤倫彦・フジテレビ調査報道班、小学館、2008 年
『薬害肝炎とのたたかい—350 万人の願いをかかげて』、薬害肝炎全国原告団出版委員会、桐書房、2009 年
『薬害肝炎裁判史』、薬害肝炎弁護団、日本評論社、2012 年
『薬害ヤコブ病の軌跡〈第 1 巻〉裁判編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004 年
『薬害ヤコブ病の軌跡〈第 2 巻〉被害・運動編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004 年
『薬害ヤコブ病—見過ごされた警告』、井元里士、かもがわ出版、1999 年
『心の叫び—薬害ヤコブ病裁判解決へのみちのり』、薬害ヤコブ病大津訴訟弁護団、かもがわ出版、2003 年

『いのちを返せ!—ドキュメント薬害ヤコブ病とたたかった人びと』、矢吹紀人・薬害ヤコブ病闘いの記録編集委員会、あけび書房、2004 年
『薬害シンドロームを絶て!くりかえされた悲劇薬害ヤコブ病』、薬害ヤコブ病問題シンポジウム実行委員会、ケイ・アイ・メディア、2000 年
『注射による筋短縮症、注射による筋短縮症全国自主検診医師団学術調査委員会』、三一書房、1996 年
筋短縮症—つくられた障害児たち』、注射による筋短縮症から子供を守る全国協議会、績文堂出版、1977 年
『山梨筋短縮症裁判の記録』、山梨筋短縮症裁判弁護団、日本評論社、1994 年
『薬害スモン』、亀山忠典、大月書店、1977 年
『薬害を負うって行く』、横山悦子、鶴書院、1997 年
『岩手スモン運動誌失われた時の叫び—薬害スモンとの闘いとその軌跡』、帷子貢、岩手スモンの会、2000 年
『スモン被害—薬害根絶のために』、高野哲夫、三一書房、1979 年
『空前の薬害訴訟—「スモンの教訓」から何を学ぶか』、泉博、丸ノ内出版、1996 年
『スモン・スキャンダル—世界を蝕む製薬会社』、オッレ・ハンソン、朝日新聞社、1978 年
『裁かれる現代医療—スモン・隠れた加害者たち』、高橋晄正・水間典昭、筑摩書房、1981 年
『スモン事件と法』、淡路剛久、有斐閣、1981 年
『スモン訴訟の記録』、スモン訴訟東京弁護団、スモン訴訟東京弁護団、1983 年
『薬害スモン全史全 4 巻』、スモンの会全国連絡協議会、労働旬報社、1981 年
『グラフィック・ドキュメントスモン』、羽賀しげ子・実川悠太・小林茂、日本評論社、1990 年
『神と悪魔の薬サリドマイド』、Rock Brnner, Trent Stephens、 日経 BP 社、2001 年
『サリドマイドと医療の軌跡』、栢森良二、西村書店、2013 年
『サリドマイド物語』、栢森良二、医歯薬出版、1997 年
『サリドマイド事件全史』、川俣修壽、緑風出版、2010 年
『不思議の薬—サリドマイドの話』、鳩飼きい子、潮出版社、2001 年
『薬品公害と裁判—サリドマイド事件の記録から』、藤木英雄・木田盈四郎、東京大学出版会、1974 年
『サリドマイド—科学者の証言』、増山元三郎、東京大学出版会、1971 年
『イレッサ薬害—判決で真実は明かされたのか』、片平洌彦、桐書房、2013 年
『陣痛促進剤あなたはどうする—お産の前に一番大切なことについてきちんと説明を受けていますか?』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、2003 年
『病院で産むあなたへ—クスリ漬け出産で泣かないために』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、1995 年
『薬害はなぜ隠されたのか—“生け贄”にされた医師の告発』、水沢溪、三一書房、1997 年
『タミフル薬害—製薬企業と薬事行政の責任と課題』、片平洌彦、桐書房、2009 年
『知っておきたい薬害の教訓—再発防止を願う被害者からの声』、医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、薬事日報社、2012 年
『ノーモア薬害—薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平洌彦、桐書房、1997 年
『薬害過失と因果関係の法理』、塩野隆史、日本評論社、2013 年
『和英対訳日本の薬害事件 -薬事規制と社会的要因からの考察』、一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、薬事日報社、2013 年

『厚生省薬害史—行政の歪が見えてくる!厚生省薬事関連訴訟の軌跡』、富塚孝、三一書房、1997 年
『チバガイギーの内幕—薬害の構造』オッレ・ハンソン、青木書店、1989 年
『ハンセン病・薬害問題プロジェクト作為・不作為へ』、山本務・熱田一信、本の泉社、2007 年
『厚生省の「犯罪」—薬害』、毎日新聞薬害エイズ取材班、日本評論社、1997 年
『日本の薬害』、高野哲夫、大月書店、1979 年
『戦後薬害問題の研究』、高野哲夫、文理閣、1981 年
『ドキュメント日本の公害第 3 巻薬害・食品公害』、川名英之、緑風出版、1989 年
『薬害を追う記者たち』、毎日新聞大阪医療取材班、三一書房、1996 年
『薬害の社会学—薬と人間のアイロニー』、宝月誠、世界思想社、1986 年
『図解薬害・副作用学（みてわかる薬学)』、川西正祐・小野秀樹、南山堂、2013 年
『薬害はなぜなくならないか—薬の安全のために』、浜六郎、日本評論社、1996 年
『ノーモア薬害—薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平洌彦、桐書房、1997 年
『腐蝕の連鎖薬害と原発にひそむ人脈』、広瀬隆、集英社、1996 年
『FDA の知識ジェネリック薬—不安と期待』、石居昭夫、薬事日報社、2012 年
『薬害と政治—薬の氾濫への処方箋』、フィリップ・R.リー、紀伊国屋書店、1978 年
『薬害—その医学的・薬学的・法学的側面』、曽田長宗・講談社サイエンティフィク、講談社、1981 年
『舛添メモ厚労官僚との闘い 752 日』、舛添要一、小学館、2009 年
『厚生労働省戦記—日本政治改革言論』、舛添要一、中央公論新社、2010 年
『医療事故・カルテ開示・患者の権利』、石井昭男、明石書店、2001 年
『戦後行政の構造とディレンマ—予防接種行政の変遷』、手塚洋輔、藤原書店、2010 年
『カルテ改ざんはなぜ起きる—検証:日本と海外』、石川寛俊、日本評論社、2006 年
『医療と裁判—弁護士として、同伴者として』、石川寛俊、岩波書店、2004 年
『医薬を近代化した研究と戦略』、山下麻衣著、芙蓉書房出版、2000 年
『MMR ワクチン薬害事件　新3種混合ワクチンの軌跡』MMR 訴訟弁護団編著、2007 年
『大阪社会労働運動史　第9巻』、大阪社会運動協会、2009 年
『医薬品の安全性と法　薬学法学のすすめ』鈴木利廣・水口真寿美・関口正人、エイデル研究所、2015 年
薬害教育 DVD シリーズ『温故知新～薬害から学ぶ～』、医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団（旧　日本公定書協会)、メディアバンガード(2015.2 現在8巻刊行、続刊)

| | |
|---|---|
| 文献番号 | 201523013A |
| 報告区分 | 総括 |
| 研究年度 | 平成 27(2015)年度 |
| 研究課題名 | 薬害資料データ・アーカイブズの基盤構築に関する総合研究 |
| 研究分野名 | 健康安全確保総合研究 |
| 研究事業名 | 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究 |
| 研究代表者 | 鈴木 玲　(研究リーダー 金 慶南) |